2.3.5.4 震源分布

図 2.3.5.4-1 に震源域近傍の震源分布を示す. 震源断層近傍で特に明白な空白域や線状の 震源分布は認められない.



図 2.3.5.4-1 震源分布 (気象庁 1 元化震源: 1926-1997)

2.3.5.5 磁気異常

図 2.3.5.5-1 に極磁気異常を示す.特に活断層と対応関係はみられない.





2.3.5.6 重力異常

図 2.3.5.6-1 に 1.5-60km の空間フィルターを適用した重力異常図の勾配を示す. 北側では 対応関係はみられない.



図 2.3.5.6-1 震源域近傍の重力異常(1.5-60km の空間フィルター適用後)

2.3.5.7 震源断層との比較

地質断層及び重力異常から推定された断層と Miyakoshi et al. (2000) による震源断層との 比較結果を図 2.3.5.7-1 に示す.



図 2.3.5.7-1 推定された断層と Miyakoshi et al. (2000) による震源断層との比較

2.3.6 1995年兵庫県南部地震

2.3.6.1 震源断層情報

図 2.3.6.1-1 に Sekiguchi et al. (2000) による震源断層情報および活断層情報を示す.



図 2.3.6.1 -1 震源断層情報(震源断層位置図: Sekiguchi et al., 2000)

2.3.6.2 断層情報

図 2.3.6.2 -1 に震源域近傍の活断層分布を示す.



図 2.3.6.2 -1 震源域近傍の活断層分布



図 2.3.6.2-2 に地震調査研究推進本部による起震断層を示す.

図 2.3.6.2-2 地震調査研究推進本部による起震断層

2.3.6.3 断層情報による解釈

図 2.3.6.3-1 に地質断層および地質図を示す.南西側には延長するような構造はみられな いが,北東側には数多くの活断層が密集している.長期評価では野畑家断層まで起震断層 としているが,ここでは走向が大きく異なる有馬高槻構造線まで一連の断層とした.



図 2.3.6.3 -1 震源域近傍の地質断層

2.3.6.4 震源分布

図 2.3.6.4-1 に震源域近傍の震源分布を示す. 震源断層近傍で特に明白な空白域や線状の 震源分布は認められない.



図 2.3.6.4 -1 震源分布 (気象庁 1 元化震源: 1926-1994)

2.3-72

2.3.6.5 磁気異常

図 2.3.6.5-1 に極磁気異常を示す.特に活断層との対応関係はみられない.



図 2.3.6.5-1 震源域近傍の磁気異常

2.3.6.6 重力異常

図 2.3.6.6-1 に 1.5-100km の空間フィルターを適用した重力異常図の勾配を示す. 北東側 へは特に延長せず,南西側には急変帯に沿って走向が大きく変わるところまで採用した. 長期評価における淡路島西岸区間は,重力異常とよく対応した構造である.



図 2.3.6.6-1 震源域近傍の重力異常(1.5-100km の空間フィルター適用後)

2.3.6.7 震源断層との比較

地質断層及び重力異常から推定された断層と Sekiguchi et al. (2000) による震源断層との 比較結果を図 2.3.6.7-1 に示す. 淡路島西岸区間も同時に活動するケースを考えると,両者 の長さを合わせた長さになるが,ここではそのようなケースは考えない.



図 2.3.6.7-1 推定された断層と Sekiguchi et al. (2000) による震源断層との比較

2.3.7 1978年伊豆大島近海地震

2.3.7.1 震源断層情報

図 2.3.7.1 -1 に Kikuchi and Sudo (1984) による震源断層情報および活断層情報を示す.



図 2.3.7.1-1 震源断層情報(震源断層位置図: Kikuchi and Sudo, 1984)

2.3.7.2 断層情報

図 2.3.7.3-1 に震源域近傍の活断層分布を示す.





2.3.7.3 断層情報による解釈

図 2.3.7.3 -1 に地質断層および地質図を示す.活断層周辺に対応する地質構造はみられない.

凡例 Limpit Manazurta Knoll ★ 震央 デジタル活断層 - 地質断層 - Active Fault Trace 断層長 - Active Fault Trace (Concealed) ■■■■ 活断層から推定 Active Fault Trace (Site Indistinct) ==== +地質断層 - Anticline Dip Slip 相模灘 SAGAMI NADA (SEA) - Presumed Active Fault Syncline 7.5 15 km Λ **Ø**K \bigcirc

図 2.3.7.3 -1 震源域近傍の地質断層

2.3.7.4 震源分布

図 2.3.7.4-1 に震源域近傍の震源分布を示す. 震源断層近傍で特に明白な空白域や線状の 震源分布は認められない.



図 2.3.7.4-1 震源分布 (気象庁 1 元化震源: 1926-1977)

2.3.7.5 磁気異常

図 2.3.7.5-1 に極磁気異常を示す. 活断層周辺に対応する磁気異常はみられない.

 凡例 ★ 震央 デジタル活断層 Active Fault Trace M層長 Active Fault Trace (Concealed) Active Fault Trace (Site Indistinct) Anticline Dip Slip Presumed Active Fault 	
- Syncline	
0 7.5 15 km	
	\bigcirc
	2
Magnetic Anomaly (Reduced to Po (nT)	ple)
-511 -356 -191 -36 118 284 438 593 758 912 1066	1232 1387 1541 1707 1861



2.3.7.6 重力異常

図 2.3.7.6-1 に 1.5-80km の空間フィルターを適用した重力異常図の勾配を示す. 西側に重 力異常の変化帯に沿って若干延長された. 東側には対応する構造はみられないが,大きな 地質構造に対応した急変帯がみられるため,これ以上の延長は行わない.

 兄例 デジタル活断層 Active Fault Trace Active Fault Trace (Concealed) Active Fault Trace (Site Indistinct Anticline Dip Slip Presumed Active Fault Syncline ★ 震央 	 → 地質断層 断層長 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	

図 2.3.7.6-1 震源域近傍の重力異常(1.5-80km の空間フィルター適用後)

地質断層及び重力異常から推定された断層と Kikuchi and Sudo (1984) による震源断層と の比較結果を図 2.3.7.7-1 に示す. 断層長の乖離を考えた場合,余震分布より推定された海 域の断層長の有無による. 地震後に海域の反射法地震探査の再解析結果でも認められてい ない(地震調査研究推進本部, 2015).



図 2.3.7.7-1 推定された断層と Kikuchi and Sudo (1984) による震源断層との比較

2.3.8 1945年三河地震

2.3.8.1 震源断層情報

図 2.3.8.1 -1 に Kakehi and Iwata (1992) による震源断層情報および活断層情報を示す.



図 2.3.8.1-1 震源断層情報(震源断層位置図: Kakehi and Iwata, 1992)

2.3.8.2 断層情報

図 2.3.8.2-1 に震源域近傍の活断層分布を示す.



図 2.3.8.2 -1 震源域近傍の活断層

2.3.8.3 断層情報による解釈

図 2.3.8.3 -1 に地質断層および地質図を示す.活断層周辺に対応する地質構造はみられない.





2.3.8.4 震源分布

図 2.3.8.4-1 に震源域近傍の震源分布を示す. 震源断層近傍で特に明白な空白域や線状の 震源分布は認められない.



図 2.3.8.4-1 震源分布 (気象庁 1 元化震源: 1926-1943)

2.3.8.5 磁気異常

図 2.3.8.5-1 に極磁気異常を示す. 活断層に対応した構造はみられない.



図 2.3.8.5-1 震源域近傍の磁気異常

2.3.8.6 重力異常

図 2.3.8.6-1 に 1.5-80km の空間フィルターを適用した重力異常図の勾配を示す.東西走向の活断層には対応する重力異常の急変帯が認められないため、1mgal/km 以上の領域まで延長した.南北走向のものは、急変帯に沿って一部南側に延長した.



図 2.3.8.6-1 震源域近傍の重力異常(1.5-80km の空間フィルター適用後)